大地震遭遇時の
鉄道利用者の行動調査

【概要】

大地震に遭遇した際に人々が取りそうな行動を把握しておくことは、災害時の対応を策定する上で重要なことです。そこで、都市部の３駅（乗車人員150000人／日以上）を対象として、２回の質問紙調査を実施し、約3500人の鉄道利用者から回答を得ました。

【特徴】

今回の調査では、

・地震遭遇後に人々が駅に望むこと
・地震遭遇後の行動として駅に行くことを選択する人の量
・地震直後と数時間経過後の行動選択の変化
・駅の対応に関する日常的な情報発信が人々に及ぼす効果

などを把握しました。特に、地震遭遇後の行動については、午前、午後、夜の３種類の地震発生時間を想定して調べました。

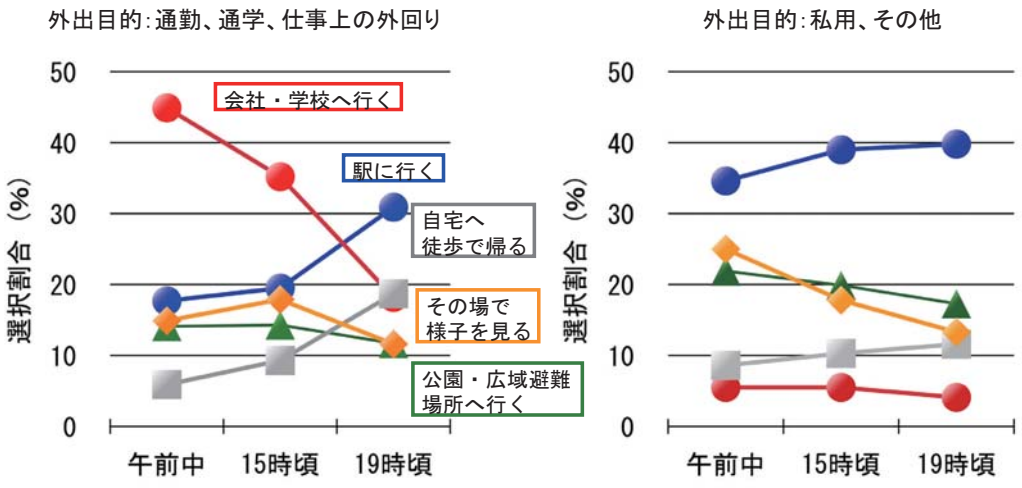

図1 地震遭遇後30分程度の間の行動（平日の場合・主な行動５つを抜粋・３駅合算）

【用途】

調査対象駅が都市部の大駅であるため、今回の調査結果を他の駅にそのまま援用することは適当ではありません。しかし、駅の利用目的別に今回の回答者を群別して整理することで、他の駅における人々の行動を類推することも可能です。

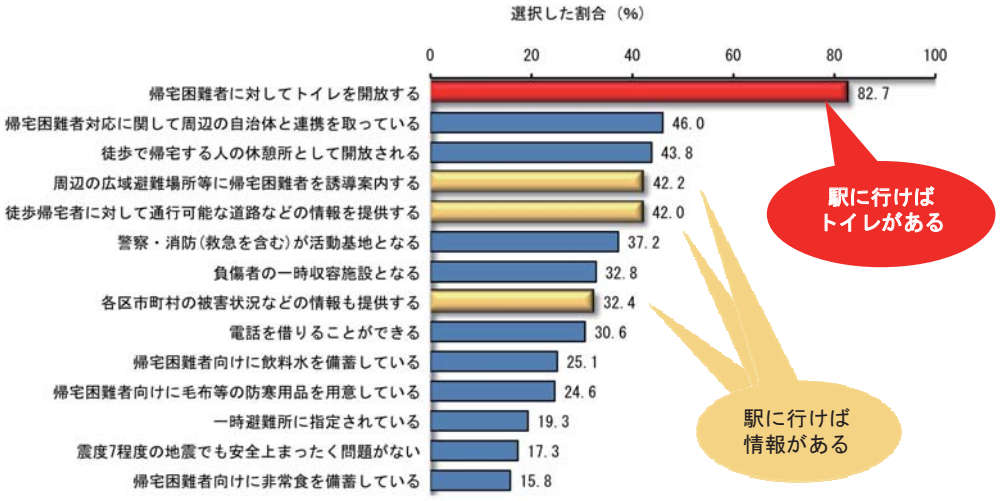

図2 駅の機能や役割に対する認識（期待）

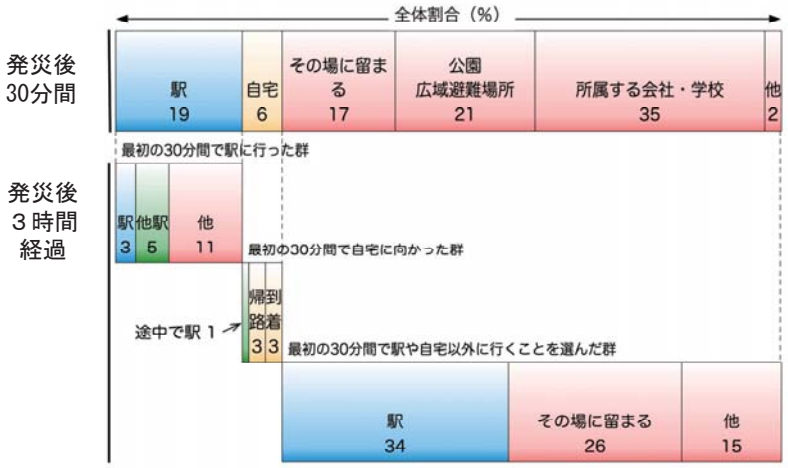

図3 午前9時発災の場合の30分間と3時間後の行動 （外出目的：通勤、通学、仕事上の外回り）

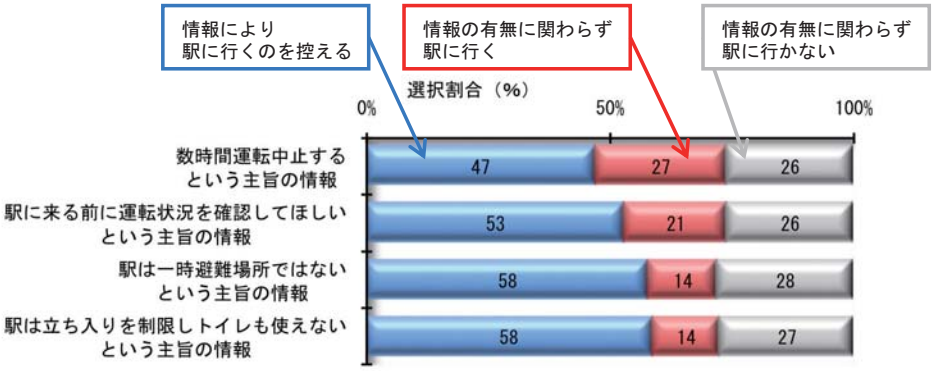

図4 日常的に情報を得ることで駅に行くことを控えるようになるのか